

議会報告会記録（平成 23 年 10 月 26 日（水） 善防公民館）

1 部 議会報告

6 月議会に関する質疑応答

問：任期付職員の条例廃止で、任期が不明確になるのでは。身分は正職員、嘱託、アルバイトのどれに属するのか。

答（井上）：条例は廃止されたが、採用されるときに、契約をしている。身分は保障されており、残任期間まで勤めてもらうので、条例が廃止されて影響はない。役職は専門員であり、市長の裁量権によるもの。条例廃止について、賛成・反対で意見がわかれた。

問：3 年間の契約のもとに雇用形態があるのか。

答：（井上） 任期中は正規の職員である。

9 月議会に関する質疑応答

問：陳情者の意見を聴く前に、結論を出している。最初からその予定だったのか。議会基本条例の条文が無視されて決められた。昨年度と今年度で、議員の報酬はどのように変わったのか。

答（井上）：陳情内容にある、インターネットによる中継は行った。先に結論を出したという指摘は、6 月議会に市長、副市長、教育長の給与カットの議論を行い、賛成した。これを受けてどのような対応をするかということで、議員協議会を開き、議員からさまざまな意見が出た。そこで議員報酬の特別委員会をつくり、公開しながら、議論すべきという結論に至った。9 月議会までに、そのような経緯があったのは事実。委員会としての最終判断は、陳情者の意見も聞きながら、最終判断しようということで。結果としては、期末手当を 0.45 カ月分カットすることになった。議員定数 3 名減による議会費の削減も考慮すべきとの意見、それとは別に引き下げるべきとの意見もあった。1 年間活動して報酬について、検討していく。

問：平成 22 年度と平成 23 年度の議員一人あたりの年収は。

答（森元）：期末手当のカットで、議員一人あたり年間 19 万円程度のカットになる。従来からのカットを同様に行うと決めた。平成 22 年度と平成 23 年度を比較すると、議会全体では 3 名減となったことで 1,600 万円程度の減である。

問：前年度と同じか。

答（森元）：3.95 か月から前年と同様の 3.5 カ月とした。年間 610 万円から、591 万円となる。

問：22 年度は 591 万円程度だった。

答（森田）：条例で決められている月額はそのままである。期末手当で削減を行うこととした。前期と変わらない。議員報酬について、毎年検討することと決めた。来年度も議員報酬が妥当かどうか審議する時間をとる予定。

問：市長、副市長、教育長の削減は議会で承認した。19万円の減額は、3.3%ほどで少ないという感覚。市長給与カットは痛みを伴うものだ。今の財政状況を考えると、議員も痛みを感じて、議会に携わっていくという意気込みが足りない。要望として、同じ気持ちで報酬を考えていただきたい。

答（井上）：特別委員会でも、さまざまな意見が出た。議会だよりも委員会の内容を掲載する。広く意見を聞きながら、今後も議論を重ねていく。

答（森田）：次の議会だよりには、他市との比較も掲載している。15名中新人が7名いるので、1年間議員活動をこなせば、新たな意見も出てくるだろう。委員会では、減額すべきとの強い意見、もう少し時間をかけて検討すべきとの意見も出た。来年度も検討する。

2部 市政全般についての意見交換

問：町内からの苦情。ゴミの収集が業務委託になり、収集時間が昼を回ったりしてもいい、ルーズな時間で委託しているのか。

答（三宅）：収集はすべて業務委託、それぞれの業者の都合によって集めているのだろう。何時にするという明確な設定はしていると思うが、その意見を行政に報告する。

問：これまでは何時までに出しなさいという決まりがあった。業務委託では、ルーズな時間なのか。

答（井上）：担当者に確認をする。不便等が出ていれば、改善する必要がある。全市的に確認してみる。

問：小中学校の児童、生徒数が減っているのに驚いた。下里、賀茂小学校区の0歳児、1歳児の数を考慮したとき、13年後には善防中は80数名になってしまう。現在よりも3分の1以下になってしまう。この状況に対して、どのように考えているのか。

答（井上）：加西市の対応は、耐震化、改築をはかるべきとしている。市長も人口増対策をすすめていくと思うが、考えなければならぬときには、地域住民の意見を得ながら、学校のあり方も考えなければならぬ状況もある。現在の学校施設の安全をはかるというのは、地域の声を反映したもの。今後の推移を見ながら検討していきたい。

答（黒田）：加西市全般の問題と思う。小野、加東に加西から人口が流れている。子ども医療費無料、高い水道料金といった問題も解決していかなければならない。住みやすい財政状況をつくっていくべきだと思う。

答（森田）：人口増対策特別委員会を設置している。5万人都市への支持を受けて、市長は当選しており、議会も将来の危機感を持っているため、委員会を設置することを決めた。子どもたちの数が非常に少ない状況は承知している。その現状を打破し、元気のある加西を取り戻すことが議会の大きな使命であることは全議員で一致しており、今後の取り組みに期待していただきたい。

答（織部）：子どもを増やしていく施策が必要だ。加西は若者が住みにくい状況があった。北条中は給食がないこと、医療費の負担などが親にとって大きい。ここ数年で、市内業者より市外業者を使い、内需をはかっていない。加西市の仕事が非常に少ないので、若い人が住みにくい状況だ。内需拡大や給食の実施など、若者が住みやすいまちにしようと市長も取り組んでいるので、わたしたちも全力で支援していきたい。「過渡期」と考えていきたい。小学校よりも中学校の問題が大きいと考えている。

問：現実、今より減ることは目に見えている。来年も、善防中校区では20数名しか生まれない。国全体で減っているのに、加西だけが増えていくということは難しい。部活動の部数を減らす状況で、楽観的ではなく、もう少し真剣に考えるべき。会場のみなさんにも考えてもらいたいし、議会としてしっかりとした対応をしてもらいたい。

答（井上）：いい加減に考えているということではなく、真剣に考えればこそ、子どもたちの数が減っていくのを見過ごすわけにはいかない。どういう対応すべきか、各議員が考えているところ。努力をするのとしらないのでは、5年後、10年後の結果が違ってくる。宇仁校区は子どもの数は少なく、地域に学校が残ってほしいという思いがあって、さまざまな取り組みを進めてきてきた。自治体、国を含めて、地域にこたえる少子化対策を全力ですすめていくべき。それを行わなければ、日本が弱体化していく。しっかりとした少子化対策をすすめ、議会でも議論していきたい。